

技術士受験を経て得たもの

平成25年 3月 1日
土木企画課 吉田 和成

1. はじめに

技術士試験を経験し得たものは多々ありますが、改めて自分が受験すると想定した場合知っておきたい情報として、「試験のイメージ」、「効果的な勉強方法」及び「活用方策」について書きます。

2. 建設部門の試験 <公務員向きの試験>

平成25年度に試験科目の内容が変更になりますが、筆記試験は大きく「必須科目」と「選択科目」があり、必須科目は主に国土交通白書に記載された内容から、選択科目は自分が選択した専門分野（分野は道路、河川、都市など全11分野）に関連した施策等から出題されます。

白書は、社会資本整備や維持管理に関する国交省からの行政文書の基となる考え方や方向性が凝縮されたものであり、専門分野関連施策とは、白書に加え、〇〇構造令や〇〇示方書など日常業務で使用する書籍に関する事項や周辺知識などです。

これらは、日々の業務で接するものばかりで、意識せずに身に付いているものが多くあります。つまり、建設部門の試験は公務員に向いている資格試験だと感じました。

3. 勉強方法 <客観的な視点>

筆記試験で要求される二千字超の論文作成などに対応するには一定期間のトレーニングが必要であり、ここで大事なことは、スタートから本番までの「全体を意識したスケジュール管理」です。

常に自分の取り組みが、目標とする合格ラインまでの「道のり」の「どの地点で、何をマスターしようとしているか」を意識し続けることが、長丁場の勉強のモチベーション維持に有効だと思います。そうした意識を持つことで、勉強に要する期間や時間が必然的に明らかになります。

とは言え、それなりに的を得た論文を手書きで作成するのはそう簡単ではありません。

そう感じた時の具体的な対応として、あまり考えずに頭の中にあるイメージを基に、とりあえず手を休めず書き進めることをお勧めします。

その後、自分のつまづき易いポイントやイメージを上手く表現できない箇所をカバーする様に、合格論文や白書等でフォローアップします。

当たり前かも知れませんが、この方法が、本番の論文作成で有効となる「的を外さない自分なりの表現」を体得する最も効果的な方法と考えます。

もう一つ大事なことが、「自分の取り組みや実力を客観的に評価」することです。ここでは、関連ホームページでの情報収集やインターネット上の指導講座・セミナーなどをお勧めします。

4. 活用方策 <体系的整理>

論文を作成する上で有効な方法に、骨子を「現状・課題・問題点・解決策」の4部構成とするものがあります。

この4部構成を意識した文章作成のトレーニングは、普段の業務でも有効だと感じました。今

ある状況から解決すべき課題や問題点を抽出することは、仕事のあらゆる局面で必要となります
また、それまであまり意識することなく積み重ねてきた業務経歴を、技術的な側面から振り返ることは、実はとても貴重な経験であると、試験勉強を経て初めて実感できました。これは同時に、その後の自分を展望する意味でもとても大きなものでした。

つまり、受験を通して、自分が培ってきた経験、自分の組織が社会に果たす役割や国の施策との関係などを体系的に整理できるのです。

5. おわりに <重要な最初の一步>

複数回のチャレンジを経て、最も重要なことは「気持ちの上での最初の一步」だと考えます。得てして最大の障壁は、資格に対する漠然としたイメージから、自らが作り出す実態のない高いハードルだったりします。

何となく進めてみると遠く感じることも、クリアできる自分を強くイメージして取り組むと案外近いことがあります。

以上、少しでも皆さまのお役にできれば幸いです。